

# 不等式の証明に役立つ不等式と接線の利用 について

やなぎだ いつお  
柳田 五夫

## §1. はじめに

不等式の証明に役立つ不等式としては、相加平均・相乗平均を含む不等式

「 $a_i > 0$  ( $i=1, 2, \dots, n$ ) のとき

$$\frac{a_1 + a_2 + \dots + a_n}{n} \geq \sqrt[n]{a_1 a_2 \dots a_n}$$

が成り立つ。」

や、コーシー・シュワルツの不等式

「 $a_1, a_2, \dots, a_n, b_1, b_2, \dots, b_n$  が実数のとき

$$(a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2)(b_1^2 + b_2^2 + \dots + b_n^2) \geq (a_1 b_1 + a_2 b_2 + \dots + a_n b_n)^2$$

が成り立つ。」

が有名であるが、ここでは大学入試に出題された2つの不等式を紹介したい。

また、不等式を証明するために、接線の利用についても述べたい。

## §2. 有用な不等式 1

□  $a_1, a_2, \dots, a_n, x_1, x_2, \dots, x_n$  が実数で、 $x_1 > 0, x_2 > 0, \dots, x_n > 0$  のとき

$$\frac{a_1^2}{x_1} + \frac{a_2^2}{x_2} + \dots + \frac{a_n^2}{x_n} \geq \frac{(a_1 + a_2 + \dots + a_n)^2}{x_1 + x_2 + \dots + x_n}$$

が成り立つ。等号は

$$\frac{a_1}{x_1} = \frac{a_2}{x_2} = \dots = \frac{a_n}{x_n}$$

のときに限る。

この不等式は、次の問題に表れた不等式を一般化したものである。

問題 1  $a, b, c$  を正の定数とするとき、

(1) 正の数  $x, y$  の和が一定数  $h$  に等しいならば

$$\frac{a^2}{x} + \frac{b^2}{y} \geq \frac{(a+b)^2}{h}$$

(2) 正の数  $x, y, z$  の和が一定数  $k$  に等しいとき

$$\frac{a^2}{x} + \frac{b^2}{y} + \frac{c^2}{z}$$
 の最小値を求めよ。

〔名古屋大〕

□□の証明 数学的帰納法で証明する。

(i)  $n=2$  のとき

$$\frac{a_1^2}{x_1} + \frac{a_2^2}{x_2} - \frac{(a_1 + a_2)^2}{x_1 + x_2} = \frac{(a_1 x_2 - a_2 x_1)^2}{x_1 x_2 (x_1 + x_2)} \geq 0$$

から成り立つことがわかる。等号は  $\frac{a_1}{x_1} = \frac{a_2}{x_2}$  のとき成り立つ。

(ii)  $n$  のとき成り立つと仮定すると、 $n+1$  のときも

$$\begin{aligned} & \frac{a_1^2}{x_1} + \frac{a_2^2}{x_2} + \dots + \frac{a_n^2}{x_n} + \frac{a_{n+1}^2}{x_{n+1}} \\ & \geq \frac{(a_1 + a_2 + \dots + a_n)^2}{x_1 + x_2 + \dots + x_n} + \frac{a_{n+1}^2}{x_{n+1}} \\ & \geq \frac{(a_1 + a_2 + \dots + a_n + a_{n+1})^2}{x_1 + x_2 + \dots + x_n + x_{n+1}} \end{aligned}$$

より不等式は成り立つ。等号は

$$\frac{a_1}{x_1} = \frac{a_2}{x_2} = \dots = \frac{a_n}{x_n} \text{ かつ}$$

$$\frac{a_1 + a_2 + \dots + a_n}{x_1 + x_2 + \dots + x_n} = \frac{a_{n+1}}{x_{n+1}} \text{ から}$$

$$\frac{a_1}{x_1} = \frac{a_2}{x_2} = \dots = \frac{a_n}{x_n} = \frac{a_{n+1}}{x_{n+1}} \text{ のとき成り立つ。}$$

(i), (ii) よりすべての  $n \geq 2$  について不等式は成り立つ。 ■

□注 1 □ コーシー・シュワルツの不等式を使って、□の不等式を証明できる。

$$\begin{aligned} & (x_1 + x_2 + \dots + x_n) \left( \frac{a_1^2}{x_1} + \frac{a_2^2}{x_2} + \dots + \frac{a_n^2}{x_n} \right) \\ & \geq \left( \sqrt{x_1} \cdot \frac{a_1}{\sqrt{x_1}} + \sqrt{x_2} \cdot \frac{a_2}{\sqrt{x_2}} + \dots + \sqrt{x_n} \cdot \frac{a_n}{\sqrt{x_n}} \right)^2 \\ & = (a_1 + a_2 + \dots + a_n)^2 \end{aligned}$$

□注 2 □ 逆に  $b_i \neq 0$  ( $i=1, 2, \dots, n$ ) のとき、コーシー・シュワルツの不等式が証明できる。

$$\begin{aligned}
& a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2 \\
&= \frac{a_1^2 b_1^2}{b_1^2} + \frac{a_2^2 b_2^2}{b_2^2} + \dots + \frac{a_n^2 b_n^2}{b_n^2} \\
&\geq \frac{(a_1 b_1 + a_2 b_2 + \dots + a_n b_n)^2}{b_1^2 + b_2^2 + \dots + b_n^2} \text{ から,} \\
& (a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2)(b_1^2 + b_2^2 + \dots + b_n^2) \\
&\geq (a_1 b_1 + a_2 b_2 + \dots + a_n b_n)^2
\end{aligned}$$

を得る。 ■

①の不等式の使い方をみていきたい。まず、基本的な不等式として、 $a, b, c$  を実数とすると、

$$\begin{aligned}
a^2 + b^2 &= \frac{a^2}{1} + \frac{b^2}{1} \geq \frac{(a+b)^2}{2} \\
a^2 + b^2 + c^2 &\geq \frac{(a+b+c)^2}{3} \text{ が示せる。}
\end{aligned}$$

**問題 2**  $x_1 > 0, x_2 > 0, \dots, x_n > 0$  で  $x_1 + x_2 + \dots + x_n = 1$  のとき、次の不等式を証明せよ。

$$\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} \geq n^2$$

**[解答]** ①の不等式を用いると

$$\begin{aligned}
\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} &= \frac{1^2}{x_1} + \frac{1^2}{x_2} + \dots + \frac{1^2}{x_n} \\
&\geq \frac{(1+1+\dots+1)^2}{x_1 + x_2 + \dots + x_n} \\
&= \frac{n^2}{1} = n^2 \quad \blacksquare
\end{aligned}$$

**[注]**  $(x_1 + x_2 + \dots + x_n) \left( \frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} \right) \geq n^2$

から  $\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} \geq n^2$  を示すこともできる。

**問題 3** (APMO 1991)  $a_1, a_2, \dots, a_n, b_1, b_2, \dots, b_n$  が  $a_1 + a_2 + \dots + a_n = b_1 + b_2 + \dots + b_n$  を満たす正の実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$\begin{aligned}
& \frac{a_1^2}{a_1 + b_1} + \frac{a_2^2}{a_2 + b_2} + \dots + \frac{a_n^2}{a_n + b_n} \\
&\geq \frac{1}{2}(a_1 + a_2 + \dots + a_n)
\end{aligned}$$

**[解答]** ①の不等式を使うと

$$\begin{aligned}
& \frac{a_1^2}{a_1 + b_1} + \frac{a_2^2}{a_2 + b_2} + \dots + \frac{a_n^2}{a_n + b_n} \\
&\geq \frac{(a_1 + a_2 + \dots + a_n)^2}{(a_1 + b_1) + (a_2 + b_2) + \dots + (a_n + b_n)} \\
&= \frac{(a_1 + a_2 + \dots + a_n)^2}{2(a_1 + a_2 + \dots + a_n)} \\
&= \frac{1}{2}(a_1 + a_2 + \dots + a_n) \quad \blacksquare
\end{aligned}$$

### §3. 有用な不等式 2

**問題 4**  $a, b, c, x, y, z$  はすべて正の数を表すとき、次の不等式を証明せよ。

- (1)  $(b+c)(c+a)(a+b) \geq 8abc$
- (2)  $xyz \geq (y+z-x)(z+x-y)(x+y-z)$

[東京工大]

(2)では、 $a=y+z-x, b=z+x-y, c=x+y-z$  とおくと  $b+c=2x, c+a=2y, a+b=2z$  となり、(1)と同じ不等式を証明すればよいことになるが、 $a > 0, b > 0, c > 0$  かどうかわからないので工夫が必要になる。

**[解答 1]**  $x, y, z$  に関して対称式なので、 $x \geq y \geq z$  と仮定する。 $a=y+z-x, b=z+x-y, c=x+y-z$  とおくと  $b > 0, c > 0$  はいえる。また、 $b+c=2x, c+a=2y, a+b=2z$  より

$$xyz \geq (y+z-x)(z+x-y)(x+y-z)$$

$$\iff \frac{b+c}{2} \cdot \frac{c+a}{2} \cdot \frac{a+b}{2} \geq abc$$

$$\iff (b+c)(c+a)(a+b) \geq 8abc \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

$a$  については  $a > 0$  または  $a \leq 0$  となるから場合分けをする。

(i)  $a > 0$  の場合

(1)から、①は成り立つ。

(ii)  $a \leq 0$  の場合

$b+c=2x, c+a=2y, a+b=2z$  より  $b+c > 0, c+a > 0, a+b > 0$  であるから ①の左辺  $> 0$ 、右辺  $\leq 0$  となる。よって①は成り立つ。 ■

**[解答 2]**  $x, y, z$  に関して対称式なので、 $x \geq y \geq z$  と仮定すると、 $z+x-y > 0, x+y-z > 0$  となるが、 $y+z-x$  の符号がわからないので場合分けをする。

(i)  $y+z-x \leq 0$  のときは、(2)の左辺  $> 0$ 、右辺  $\leq 0$  より(2)の不等式は成り立つ。

(ii)  $y+z-x > 0$  のときは

$$[(y+z-x)(z+x-y)(x+y-z)]^2 \leq (xyz)^2$$

$\dots\dots \textcircled{2}$

を証明すればよい。

$$(y+z-x)(z+x-y) = z^2 - (x-y)^2 \leq z^2$$

$$(z+x-y)(x+y-z) = x^2 - (y-z)^2 \leq x^2$$

$$(x+y-z)(y+z-x) = y^2 - (z-x)^2 \leq y^2$$

したがって、②は成り立つ。 ■

**[解答 3]**  $x, y, z$  に関して対称式なので、  
 $x \geq y \geq z$  と仮定して、 $x - y = p \geq 0$ 、 $y - z = q \geq 0$   
 とおくと

$$\begin{aligned} &xyz - (y+z-x)(z+x-y)(x+y-z) \\ &= (z+p+q)(z+q)z - (z-p)(z+p)(z+p+2q) \\ &= (p^2 + pq + q^2)z + p^2(p+2q) \geq 0 \end{aligned}$$

したがって、(2)の不等式は成り立つ。 ■

**[解答 4]**  $x, y, z$  に関して対称式なので、  
 $x \geq y \geq z$  と仮定する。

$$\begin{aligned} &xyz - (y+z-x)(z+x-y)(x+y-z) \\ &= x(x-y)(x-z) + y(y-x)(y-z) + z(z-x)(z-y) \\ &= (x-y)[x(x-z) - y(y-z)] + z(x-z)(y-z) \end{aligned}$$

$x \geq y \geq 0$ 、 $x - z \geq x - y \geq 0$  から  $x(x-z) \geq y(y-z)$   
 で、仮定から、左辺のすべての項は非負であるから

$$(x-y)[x(x-z) - y(y-z)] + z(x-z)(y-z) \geq 0$$

したがって、(2)の不等式は成り立つ。 ■

**[注 1]** (2)の不等式は、 $x \geq 0$ 、 $y \geq 0$ 、 $z \geq 0$  のとき  
 に成立することが容易にわかる。

また、等号成立条件は  $x > 0$ 、 $y > 0$ 、 $z > 0$  のとき  
 $x = y = z$  であることがわかる。

$x, y, z$  のうちに 0 がある場合、例えば  $x = 0$  の  
 ときは等号成立は  $0 = -(y+z)(y-z)^2$  より  
 $y = z = 0$  または  $y = z$  より  $x = y = z = 0$  または  
 $x = 0$ 、 $y = z$  となる。

まとめると、等号成立は  $x = y = z (\neq 0)$  または  
 $y = z$ 、 $x = 0$  または  $z = x$ 、 $y = 0$  または  $x = y$ 、  
 $z = 0$  のときとなる。

**[注 2]**  $xyz \geq (y+z-x)(z+x-y)(x+y-z)$  の  
 右辺を展開して整理すると

$$\begin{aligned} &x^3 + y^3 + z^3 + 3xyz \\ &\geq x^2(y+z) + y^2(z+x) + z^2(x+y) \end{aligned}$$

となる。

$(x+y+z)^3 + 9xyz \geq 4(x+y+z)(xy+yz+zx)$   
 についても両辺を展開して整理すれば同じ式が出て  
 くるので、次のようにまとめることができる。

②  $x \geq 0$ 、 $y \geq 0$ 、 $z \geq 0$  のとき、次の不等式が  
 成り立つ。

a)  $xyz \geq (y+z-x)(z+x-y)(x+y-z)$

b)  $x^3 + y^3 + z^3 + 3xyz$   
 $\geq x^2(y+z) + y^2(z+x) + z^2(x+y)$

c)  $(x+y+z)^3 + 9xyz$   
 $\geq 4(x+y+z)(xy+yz+zx)$

d)  $x(x-y)(x-z) + y(y-x)(y-z)$   
 $+ z(z-x)(z-y) \geq 0$

等号は  $x = y = z (\neq 0)$  または  $y = z$ 、 $x = 0$   
 または  $z = x$ 、 $y = 0$  または  $x = y$ 、 $z = 0$   
 のときに成り立つ。

②の d) は次の Schur の不等式の  $r = 1$  の場合  
 になっている。

**定理 (Schur)**  $x \geq 0$ 、 $y \geq 0$ 、 $z \geq 0$  で  $r > 0$  の  
 とき、次の不等式が成り立つ。

$$\begin{aligned} &x^r(x-y)(x-z) + y^r(y-x)(y-z) \\ &+ z^r(z-x)(z-y) \geq 0 \end{aligned}$$

等号は  $x = y = z (\neq 0)$  または  $y = z$ 、 $x = 0$   
 または  $z = x$ 、 $y = 0$  または  $x = y$ 、 $z = 0$   
 のときに成り立つ。

#### §4. 接線を利用して不等式を証明する

**問題 5** (USAMO Summer Program 2002)

$a > 0$ 、 $b > 0$ 、 $c > 0$  のとき

$$\left(\frac{2a}{b+c}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2b}{c+a}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2c}{a+b}\right)^{\frac{2}{3}} \geq 3$$

が成り立つことを証明せよ。

**[解答]** 不等式の左辺の式の分母と分子の次数は同  
 じであるから、

$$p = \frac{a}{a+b+c}, \quad q = \frac{b}{a+b+c}, \quad r = \frac{c}{a+b+c} \quad \text{とおく}$$

と  $p > 0$ 、 $q > 0$ 、 $r > 0$ 、 $p+q+r=1$  となる。

$$\left(\frac{2a}{b+c}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2b}{c+a}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2c}{a+b}\right)^{\frac{2}{3}} \geq 3$$

$$\iff \left(\frac{2p}{q+r}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2q}{r+p}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2r}{p+q}\right)^{\frac{2}{3}} \geq 3$$

$$\iff \left(\frac{2p}{1-p}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2q}{1-q}\right)^{\frac{2}{3}} + \left(\frac{2r}{1-r}\right)^{\frac{2}{3}} \geq 3$$

$$f(x) = \left(\frac{2x}{1-x}\right)^{\frac{2}{3}} \quad (0 < x < 1) \quad \text{とおくと}$$

$$f'(x) = \frac{4}{3} \left(\frac{2x}{1-x}\right)^{-\frac{1}{3}} \cdot \frac{1}{(1-x)^2}$$

$p = q = r = \frac{1}{3}$  のとき、不等式の等号が成り立つか  
 ら、 $y = f(x)$  上の点  $\left(\frac{1}{3}, 1\right)$  における接線の利用を

考える。 $f\left(\frac{1}{3}\right) = 3$ 、 $f\left(\frac{1}{3}\right) = 1$  であるから接線の方

程式は、 $y=3\left(x-\frac{1}{3}\right)+1$  すなわち  $y=3x$  となる。

次に、 $y=f(x)$ と接線  $y=3x$  の上下関係を調べる。

$$\begin{aligned} [f(x)]^3 - (3x)^3 &= \left(\frac{2x}{1-x}\right)^2 - (3x)^3 \\ &= \frac{x^2(4-27x+54x^2-27x^3)}{(1-x)^2} \\ &= \frac{x^2(3x-1)^2(4-3x)}{(1-x)^2} \geq 0 \end{aligned}$$

したがって、 $f(x) \geq 3x$  が成り立つから

$$f(p)+f(q)+f(r) \geq 3(p+q+r)=3 \quad \blacksquare$$

[注]  $f''(x) = \frac{4(6x-1)}{9x(1-x)^3} \left(\frac{2x}{1-x}\right)^{-\frac{1}{3}}$  より、凸関数

ではないので、後述の Jensen の定理は使えない。

次の問題は、誘導がないと解きにくいかもしれない。

**問題 6** (1)  $p > 0, q > 0, p+q=1$  のとき、関数  $f(x)=x^2$  について次の不等式が成り立つことを示せ。

$$f(px_1+qx_2) \leq pf(x_1)+qf(x_2)$$

(2)  $a > 0, b > 0, a+b=1$  のとき、(1)を用いて次の不等式が成り立つことを示せ。

$$\left(a+\frac{1}{a}\right)^2 + \left(b+\frac{1}{b}\right)^2 \geq \frac{25}{2}$$

[早稲田大]

ここでは、一般化して次の問題を考える。

**問題 7**  $x_1 > 0, x_2 > 0, \dots, x_n > 0,$   
 $x_1+x_2+\dots+x_n=1$  のとき

$$\left(x_1+\frac{1}{x_1}\right)^2 + \left(x_2+\frac{1}{x_2}\right)^2 + \dots + \left(x_n+\frac{1}{x_n}\right)^2$$

の最小値を求めよ。

[解答 1]  $g(x) = \left(x+\frac{1}{x}\right)^2$  ( $0 < x < 1$ ) とおくと

$$g'(x) = 2\left(x+\frac{1}{x}\right)\left(1-\frac{1}{x^2}\right)$$

$y=g(x)$  上の点  $\left(\frac{1}{n}, \frac{(n^2+1)^2}{n^2}\right)$  における接線の

方程式は

$$y = \frac{2(1-n^4)}{n}x + \frac{3n^4+2n^2-1}{n^2}$$

となるから、 $y=g(x)$  との上下関係を調べる。

$$g(x) - \frac{2(n-n^5)x+3n^4+2n^2-1}{n^2}$$

$$\begin{aligned} &= \frac{n^2x^4+2(n^5-n)x^3-(3n^4-1)x^2+n^2}{n^2x^2} \\ &= \frac{(nx-1)^2(x^2+2n^3x+n^2)}{n^2x^2} \geq 0 \end{aligned}$$

したがって

$$g(x) \geq \frac{2(n-n^5)x+3n^4+2n^2-1}{n^2}$$

が成り立つから

$$\begin{aligned} &g(x_1)+g(x_2)+\dots+g(x_n) \\ &\geq \frac{2(n-n^5)(x_1+x_2+\dots+x_n)+n(3n^4+2n^2-1)}{n^2} \\ &= \frac{2(n-n^5)+n(3n^4+2n^2-1)}{n^2} \\ &= \frac{(n^2+1)^2}{n} \end{aligned}$$

よって、 $x_1=x_2=\dots=x_n=\frac{1}{n}$  のとき、

最小値  $\frac{(n^2+1)^2}{n}$  をとる。

[解答 2] ①の不等式から

$$\begin{aligned} &\left(x_1+\frac{1}{x_1}\right)^2 + \left(x_2+\frac{1}{x_2}\right)^2 + \dots + \left(x_n+\frac{1}{x_n}\right)^2 \\ &= \frac{\left(x_1+\frac{1}{x_1}\right)^2}{1} + \frac{\left(x_2+\frac{1}{x_2}\right)^2}{1} + \dots + \frac{\left(x_n+\frac{1}{x_n}\right)^2}{1} \\ &\geq \frac{\left(x_1+\frac{1}{x_1}+x_2+\frac{1}{x_2}+\dots+x_n+\frac{1}{x_n}\right)^2}{1+1+\dots+1} \\ &= \frac{\left(1+\frac{1}{x_1}+\frac{1}{x_2}+\dots+\frac{1}{x_n}\right)^2}{n} \\ &\geq \frac{(1+n^2)^2}{n} \quad (\because \text{問題 2}) \end{aligned}$$

等号は、 $x_1=x_2=\dots=x_n=\frac{1}{n}$  のときである。

よって、 $x_1=x_2=\dots=x_n=\frac{1}{n}$  のとき、

最小値  $\frac{(n^2+1)^2}{n}$  をとる。

[注] [解答 1] で用いた

$$g(x) = \left(x+\frac{1}{x}\right)^2 \quad (0 < x < 1)$$

について、 $g''(x) = 2\left(1+\frac{3}{x^4}\right) > 0$  より、 $g(x)$  は下に凸である。したがって、この問題は Jensen の不等式

**定理 (Jensen)** 区間  $(a, b)$  において

$f''(x) > 0$  のとき、 $a < x_i < b$  ( $i=1, 2, \dots, n$ )

ならば、 $w_i > 0$  ( $i=1, 2, \dots, n$ ),  $\sum_{i=1}^n w_i = 1$  に対して

$$f\left(\sum_{i=1}^n w_i x_i\right) \leq \sum_{i=1}^n w_i f(x_i)$$

が成り立つ。等号は  $x_1 = x_2 = \dots = x_n$  のときに限る。

を用いると

$$\begin{aligned} & \frac{g(x_1) + g(x_2) + \dots + g(x_n)}{n} \\ & \geq g\left(\frac{x_1 + x_2 + \dots + x_n}{n}\right) = g\left(\frac{1}{n}\right) \end{aligned}$$

から、 $g(x_1) + g(x_2) + \dots + g(x_n) \geq \frac{(n^2+1)^2}{n}$  が成り立ち、簡単に解くことができる。

## §5. おわりに

①の不等式は、コーシー・シュワルツの不等式と似た不等式なので、問題によりコーシー・シュワルツの不等式と使い分けるとよい。

また、接線を利用して不等式を証明する方法も、高校生にぜひ紹介したい解法である。

最後に、§3で扱わなかった②の不等式が使える問題を紹介したい。

**問題8** 正の数  $a, b, c$  について、 $a^2(b+c-a) + b^2(c+a-b) + c^2(a+b-c)$  と  $3abc$  の大きさを比較せよ。〔類 東邦大・薬〕

[解答]  $P = a^2(b+c-a) + b^2(c+a-b) + c^2(a+b-c)$  と  $Q = 3abc$  の大きさを比較すればよい。

$$\begin{aligned} P - Q &= a^2(b+c) + b^2(c+a) + c^2(a+b) \\ &\quad - (a^3 + b^3 + c^3 + 3abc) \end{aligned}$$

と変形できるから、②b)より  $P - Q \leq 0$  となる。等号成立は  $a = b = c$  のときに限る。 ■

### 問題9 (Mihai, Piticari, Dan Popescu)

正の数  $a, b, c$  が  $a + b + c = 1$  を満たすとき、次の不等式を証明せよ。

$$5(a^2 + b^2 + c^2) \leq 6(a^3 + b^3 + c^3) + 1$$

[解答] 不等式を同次化する。

$$\begin{aligned} & 5(a^2 + b^2 + c^2) \leq 6(a^3 + b^3 + c^3) + 1 \\ \Leftrightarrow & 5(a^2 + b^2 + c^2)(a + b + c) \\ & \leq 6(a^3 + b^3 + c^3) + (a + b + c)^3 \\ \Leftrightarrow & a^2(b+c) + b^2(c+a) + c^2(a+b) \\ & \leq a^3 + b^3 + c^3 + 3abc \end{aligned}$$

最後の不等式は、②b)より成り立つ。 ■

### 《参考文献》

- [1] 柳田五夫, 接線を利用した台形の面積で、ある不等式を証明する, 数研通信 No.60
- [2] H.Lee, *Topics in Inequalities-Theorems and Techniques*

(元 栃木県立佐野高等学校)